

プレ発表での質問事項に対する回答

○みやき町立中原中学校 待鳥 由布子教諭

「学校行事への参加（出番・役割・承認）を通して生徒の自身と社会参加を引き出す支援～自立活動の工夫および組織的な対応を通して～」

① 保護者や外部機関との連携内容
・保護者とは、良いことはノートで、共通理解しておきたいできごととは電話でやり取りをしていました。 ・落ち着くまでは毎日のように電話をして、状況としてひどい時は学校まで出向いていただき、部屋の状態を一緒に見ていただいて、一緒に考えましょうというスタンスで支援を行いました。 ・また、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、エリアリーダー、巡回相談員などの外部の方との連携を図りました。スクールソーシャルワーカーとは病院へつなぐよう、保護者とやり取りしたり、県外の病院を勧めたりしていただきました。カウンセラーとは当時の担任の心のケアや、本人とつながって話を聞いてもらったりしました。また、コーディネーターが心理の方からアプローチできることがないかなどの相談をすることもありました。エリアリーダーからは、今回取り組んだ怒りの数値化や感情の言語化、距離を取ることに、自立活動の内容などのスキルを教えてくださいました。継続して来ていただき、変容に合わせて助言をいただきました。
② 個別の指導計画が有効でしたか？
・長期的な支援が必要で、急激な変化がない時期は効果を感じませんでしたが、3年間を通してみると、変化に合わせて活動を見直していくことで効果が高まったと思います。
③ 対象の児童生徒にとって、自立活動で指導したい社会性のスキルは何だと思いますか？
・思いや考えを適切な言葉で伝えること、人との距離感、自分の感情をコントロールすることなどを最優先に取り組みました。
④ 生徒がそうするしかなかった理由もあったと思います。 それはどのように理解し他の先生方と共通理解されたのでしょうか
・こちらの支援が悪くて暴言暴力が出た場合は、支援の内容について再検討し、会議や週1回の生徒指導委員会で共通理解を図りました。
⑤ 共通理解のツールとして学校全体での会議？が開かれたのでしょうか？どれくらいの頻度でどのような内容の会でしょうか？ また、他の気になる生徒についても定期的に情報共有の場あったのでしょうか。
・学校で定期的に開かれている会議を活用し、共通理解を図っていました。 ・週に1回の生徒指導委員会（各学年の生徒指導担当と管理職、生徒指導主任などが参加する会議）で各学年から報告をあげるようにしています。 ・他の気になる生徒については、「気になる生徒」というエクセルフォルダに1週間の状況を各担任が入力し、それを委員会で確認し、対応が必要な部分を協議するようにしています。また、緊急に共通理解を図りたい事案については、臨時でも委員会を開き対応しました。また、月1回の生徒指導協議会では、全職員で生徒の様子やの共通理解を図るようにしています。

⑥ 具体的にどのような助言だったのかを教えてください。

- ・【１】対応について：①正面に立たないこと②手の届く距離で支援をしないこと③周囲に危険なものを置かないこと④声かけはシンプルにし、繰り返さないこと⑤教室を飛び出したときはほかの教員と連携し、保護者に飛び出したことを伝え、離れたところから本人の居場所を確認するのみとすること（近づいたり、追いかけたり、声をかけたりしない）⑦個別のスペースに入ったら声をかけない⑧本人の体に触れない⑨暴言暴力→意見が通るという状況にしない⑩いららし始めたら１人にしてイライラ●分後戻ると伝えてから部屋を出ること⑪手が出るくらいの状況であれば、他の職員で対応すること
- ・【２】感情の数値化、言語化
- ・【３】組織での対応について

エリアリーダーからの助言

○佐賀県立伊万里特別支援学校 山口美里教諭、松井亜里更教諭

「児童一人一人の学びのつながりを大切にした授業づくり」

① 各学校が活用できるような手立てがあればありがたいと思いました。
・チェックシートは学習指導要領から作成しているため、活用することは可能です。また、本校で使っているチャートのデータをお渡しすることも可能です。
② 6年間で国語の全項目を取り扱うようにしてあるのか、項目を取り扱うことを優先しすぎると単元が不自然になりそうなので、チェックシートの使い方、取り扱い方をどのように学部で共有されているのか。
・チェックシートは指導内容の偏り重複を避けるようにするためのツールとして扱っています。
③ 「活用の良さが職員に伝わりにくかった」とお話しされていましたが、例えばどのような意見が聞かれたのか教えていただきたいです。
・個人チャートについては、取り組み始めて1年目で活用（使う）タイミングが難しいとの声が聞かれました。
④ そのような声を受けて、今後様式を改善・工夫される予定があれば教えていただきたいです。
・今年度に入って国語科の目標に記号を付け、年間計画の中でどの目標も達成できるように記入の方法について変更を行いました。
⑤ コミュニケーション面などに難しさがある児童の国語の学習活動で、自立活動の視点を踏まえた配慮や手立てがあれば参考にさせていただきたいです。
・今回の劇の取り組みに関して ○6 コミュニケーション → 自信がなかったり不安だったりすると声が小さくなる児童への支援の手立てとして、マイクを使用。声の大きさの目安「声のものさし」などを使い視覚的に示しました。（4）コミュニケーション手段の選択と活用に関する事 → 発語が不明瞭な児童への支援の手立てとして、一緒に発声したり、言いやすい言葉に変えたり、身振りを加えたりしました。（2）言語の受容と表出に関する事 など → 発語が難しい児童への支援の手立てとして、身振りで一緒に表現したり、演じる上で視覚的にわかる表現を代替として使ったりしました。（泣いている鬼の涙をつけるなど）。（2）言語の受容と表出に関する事 など ○2 心理的な安定 → 全体での活動の前に国語科の時間（個別対応）に台詞などの事前練習を行い、自信をもって生活単元学習（劇）に臨めるようにした。（1）情緒の安定に関する事
⑥ 個人チャートの上の段、国語科の内容と国語科の年間計画の部分ですが、国語科の内容を選択されてから、年間計画を立てたのか、年間計画を立ててから、国語科の内容を当てたのかを教えてください。
・個人チャートは①国語科の内容②国語科の目標③国語科の年間計画の順で計画を立てて作成しています。